

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	副鼻腔嚢胞による鼻性視神経症に対する 内視鏡下鼻副鼻腔手術（ESS）後の視機能予後の検討
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	新潟大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科において、2015年10月1日から2026年2月29日の間に副鼻腔嚢胞による鼻性視神経症に対してESSを行った患者を対象とします。
③ 概要	<p>鼻性視神経症は鼻・副鼻腔病変による眼窩への圧迫や炎症波及により視神経が障害され視力低下や視野障害をきたす疾患です。治療が遅れた場合には失明のおそれもあるため、症状出現後は早期に治療介入をすることが推奨されています。</p> <p>副鼻腔嚢胞による鼻性視神経症は内視鏡下鼻副鼻腔手術により嚢胞を除去することで視力改善が得られますが、その治療効果は症例ごとに異なり、十分な視力改善を得られない場合もあります。症状出現から手術までの期間や術前視力が視機能予後と相関するとの報告があります。</p>
④ 申請番号	2025-0350
⑤ 研究の目的・意義	<p>副鼻腔嚢胞による鼻性視神経症に対してESSを施行した症例の視機能予後を後方視的に検証します。</p> <p>本研究により、術前から視機能の予後改善の可能性を推定できる可能性があります。</p>
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から2028年2月29日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている病歴、画像検査、手術記録、治療成績などのデータを利用させていただきます。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行います。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	病歴（生年月日、年齢、性別、既往症、治療内容、予後）、内視鏡・CT/MRI画像、手術記録、手術動画、治療成績（臨床検査結果）
⑨利用する者の範囲	新潟大学で利用いたします。
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教 若杉 亮
⑪お問い合わせ先	<p>本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。</p> <p>所属：新潟大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科</p>

	<p>氏名：若杉 亮</p>
--	----------------

Tel：025-227-2306

E-mail：ryo-wakasugi-ent@med.niigata-u.ac.jp